

令和8年度 第1回朝日村上下水道事業運営審議会 概要

協議項目 ・ テーマ	主な意見・質疑内容
事業全般 ・ 水源確保	○大尾沢浄水場が完成したが、第2水源の水量減少により冬期に節水をお願いした。西洗馬での新規井戸掘削の準備を進めている。 ○施設や配管の老朽化による耐震化の必要性があり、将来大きな負担が見込まれる。下水道も将来的な広域化を検討する必要がある。
【上水道】 漏水問題	○漏水量が令和6～7年と膨らんでいないか。水が漏れていない状態を100としたら約26%が漏れているという解釈でよいのか。 →浄水作成量に対する割合で算出しており、空き家の宅内漏水等も含まれるが、前年に比べ若干改善傾向にある。費用の問題で直せていないお宅もある。 ○各家庭の漏水は微々たるものであり、水道事業としては本管からの漏水調査を優先すべき。 →管が古い路線を中心に、調査機械を借りて調査を行っている。
【上水道】 設備投資 と需要	○人口減少の中、大尾沢のみでは不足する想定か。西洗馬への多額の投資は村民のためか、企業誘致を想定したものか。 →実績として企業利用は約35,000 m³のうち約6,100 m³を占める。工場等で大量に使う水は地下水であり、水道水は従業員の福祉的なトイレ等の水がメインである。
【下水道】 将来の方向性	○将来的な広域化の検討や、下流に繋ぐ場合の料金収入減への影響が経営戦略に反映されているか。 →管路更新は反映しているが、広域化は検討中で反映されていない。 ○ピュアラインあさひの汚泥槽耐震化は両方の槽で実施する計画か。 →両方実施予定。 ○村は過去に農集排とピュアラインで2重投資をしており、100億円規模の投資は難しいため広域化の検討が不可欠。 ○将来の人口減少や災害への備えとして、集約型の下水から合併浄化槽への転換も検討の余地がある。 ○災害時の備えとして、広域化とともに浄化槽も検討してほしい。

協議項目 ・ テーマ	主な意見・質疑内容
料金改定 ・ 経営戦略	○超過料金の段階別金額変更や、基本料金を上げて安定収入を確保するのも一つの手である。 →管路更新に備えるための企業会計上の積み立てはあるが、大尾沢工事で減少した。 ○急激な値上げ(例:一気に15%上げる)よりも、事前に余裕を持たせて少しずつ上げる、あるいは毎年均等に上がる方が受け入れやすい ○物価高騰は社会情勢として理解されるため、住民への丁寧な説明が大事。 ○先進的な取り組みだけでなく、浄化槽や広域化の検討も含めてしっかりと説明していく必要がある。
その他 (スケジュール)	○今年度の審議会は全3回を予定。 ○令和9年4月の料金見直しを目指し、住民への周知期間を考慮して9月議会への上程を考えている。